

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 31 年 4 月 8 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	川口ゆり

<b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)	
京都、日本	
<b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)	
Nerd Nite 参加	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 31 年 4 月 6 日	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)	
<p><b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)</p> <p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>Nerd Niteに参加したのでここに報告する。</p> <p>Nerd Niteは科学や芸術など様々なトピックに関してカジュアルな雰囲気の中で講演を聴きディスカッションをするイベントである。私がこのイベントに行こうと思ったのは昨年ウィーンで科学のイベントを目にしたのがきっかけだった。そこでは観光スポットに温かい雰囲気のテントが立ち並び、ウィーン大の研究者らがそのなかで一般向けに彼らの研究を伝えるイベントがおこなわれていた。また、メインの会場ではお酒のグラス片手の人や子どもちらほらいるようなカジュアルな雰囲気のなか講演がおこなわれていた。素敵だな、と思うとともに日本では絶対にはないだろうなあというのがそのときの感想だった。日本で科学イベントを開催しても、科学にもともと興味のあるいわゆる「意識の高い」人しか来ないだろうと思った。今後、研究を職にするのであれば、一般の人の科学への敷居を低くするというのは使命の一つだと感じている。今回のNerd Niteは科学館などでおこなうイベントと異なり、普段ライブなどが開催されるようなイベントスペースが会場ということもありヒントが得られるかもしれないと思った。この日は、西欧文化における日本の伝統工芸、霊長類の嫌悪感、サイエンスアートの3題の講演があった。専門外の講演にはついていけない部分もあったが、堅苦しきのない雰囲気で楽しむことができた。たまたま京大のサイエンスコミュニケーターの方とお話しできたのもよい機会だった。一般向けのトークの方法として学ぶところもたくさんあった。ただ、30人弱ほどの参加者だったが、そのうち日本人は2割もいなかったように思う。今回はすべて英語というのが主な原因だと思うが、今回のような、欲を言うともう少し気軽に立ち寄れるようなイベントが日本で広まれば、と思った。</p>	
	
Cecile の発表の様子	
<b>6. その他</b> (特記事項など)	
この出張は PWS の支援を受けました。記してお礼申し上げます。	